

R6年度  
浜田養護学校  
研究の取組

# 『浜田養護学校グランドデザイン』の実現に向けて

『浜田養護学校で育てたい資質・能力』

『学部に応じた4つの交流の仕方』

『ESDの…重視する7つの資質・能力』

👉 …を踏まえて 私たちが取り組んでいること

地域と協働したESDの学習に

「主体的・対話的で深い学び」方で取組むことで

『浜田養護学校で育てたい資質・能力』を育成する

# 研究主題

R5年度より 2カ年計画

「地域とともに  
児童生徒の深い学びを支える  
授業づくり」

～ ESDを通じて  
児童生徒の思考を深める手立てを考える ～

# 研究の目的

児童生徒が主体的に地域活動に関わり、ESDを通じて課題意識をもち、解決に向けて思考していこうとする力を育むための有効な手立てを、授業づくりを通して検証する。

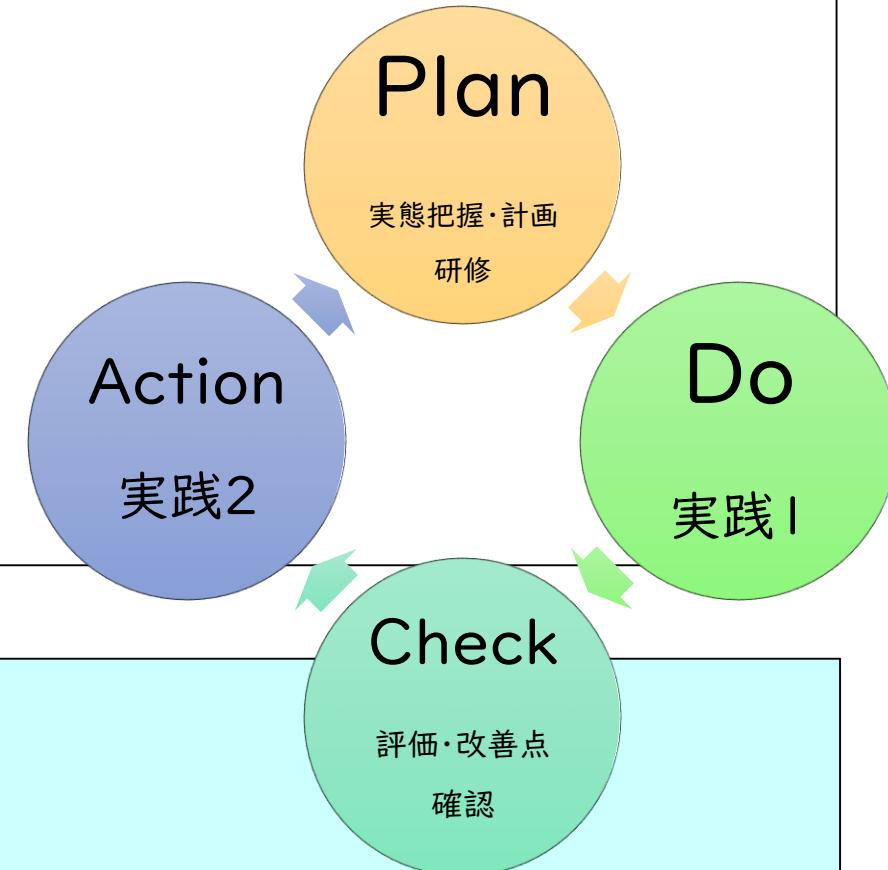
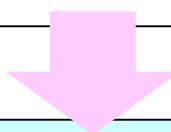
# 研究仮説

SDG`sに関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気付きや思考を見る化し、それを引き出すための手立てを工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

# 研究計画

## 【1年次】

- ① 地域連携協働学習年間計画の確認
- ② 児童生徒の思考を引き出す活動の検討
- ③ 期待する 児童生徒の思考する姿の検討
- ④ 児童生徒の深い学びを支える手立ての検討
- ⑤ 計画・実践・評価



## 【2年次】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。

# R5年度 1年次 成果と課題

取組みについて意識すること～

地域と協働したESDの学習に  
「主体的・対話的で深い学び」方で取組むことで…

仮説～

期待する児童生徒の気づきや思考を見る化し  
それを引き出すための手立てを工夫することで…

# 取組みの成果

手立て

引き出せた姿

社会に開かれた  
教育課程

思考する必然性のある活動

思考の  
見える化

思考の土台となる知識・技能を教える場面

思考のプロセスを見る化して（視覚的に）示す

学習  
プロセス

友だちの考えを見る化して共有できるようにする

計画（企画）→実行→改善→再度実行  
深い学びにつながるPDCAサイクルの明確化

思考するためのツールの工夫  
学習過程に沿った児童生徒の実態に合った発問

地域との活動に興味関心の広がり・期待感

他者との思考の共有による深い学び

新たな学習への意欲 活動への目的意思

最後まで取組む責任感

# 課題

## 取組みについて

- ・ 地域の人・もの・ことと関わる学習活動の中での課題の設定(思考をする場面の切り出し)
- ・ 児童生徒が思考を深めていく個々の手立て
- ・ 思考をつなげる手立て

## 教員の意識として

- ・ 活動ありきになっていたか
- ・ 個々の児童生徒の思考を想定し、思考を深める手立てをグループの教員間で検討できたか
- ・ 発問の妥当性  
子どもに伝わる言葉になっているか

# 課題

## 教員の意識として

1. 活動ありきになっていたいなかったか
2. 個々の児童生徒の思考の動きを想定し、思考を深めていくける手立てをグループの教員間で検討できたか
3. 発問の妥当性  
子どもに伝わる言葉になっているか

## 1, 2について

昨年度の取組から地域連携センターを中心に地域連携プロジェクトで検討され、改善されたものがR6年度に示された。これにより活動が整理された点も多い。  
学部研で、思考を深める手立てについての検討を主に重ねていきたい。

## 3について

「ファシリテーション」「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点をもって、授業づくりの際に確認をしていきたい。

# 思考を深める手立て

思考する必然性のある活動

伝わる発問  
言葉かけ

グルーピング  
ペアワーク

振返りの手立て

知識・技能を  
教える場面

思考する時間  
の設定

繰り返して見通し

思考するための  
ツールの工夫

思考の過程の  
見える化と共有

深い学びにつながる  
PDCAサイクル

選択肢の提示

待つ・任せる

…などなど、あると思いますが

児童生徒、個々に応じた手立て、思考をほり下げる手立ては  
何か、学部研、舎研会で検討しながら授業をつくっていく

# 昨年度の成果と課題より R6年度の取組みについて 研究主題と研究の目的は継続

## 研究主題

R5年度より 2カ年計画

「地域とともに  
児童生徒の深い学びを支える  
授業づくり」

～ ESDを通じて  
児童生徒の思考を深める手立てを考える～

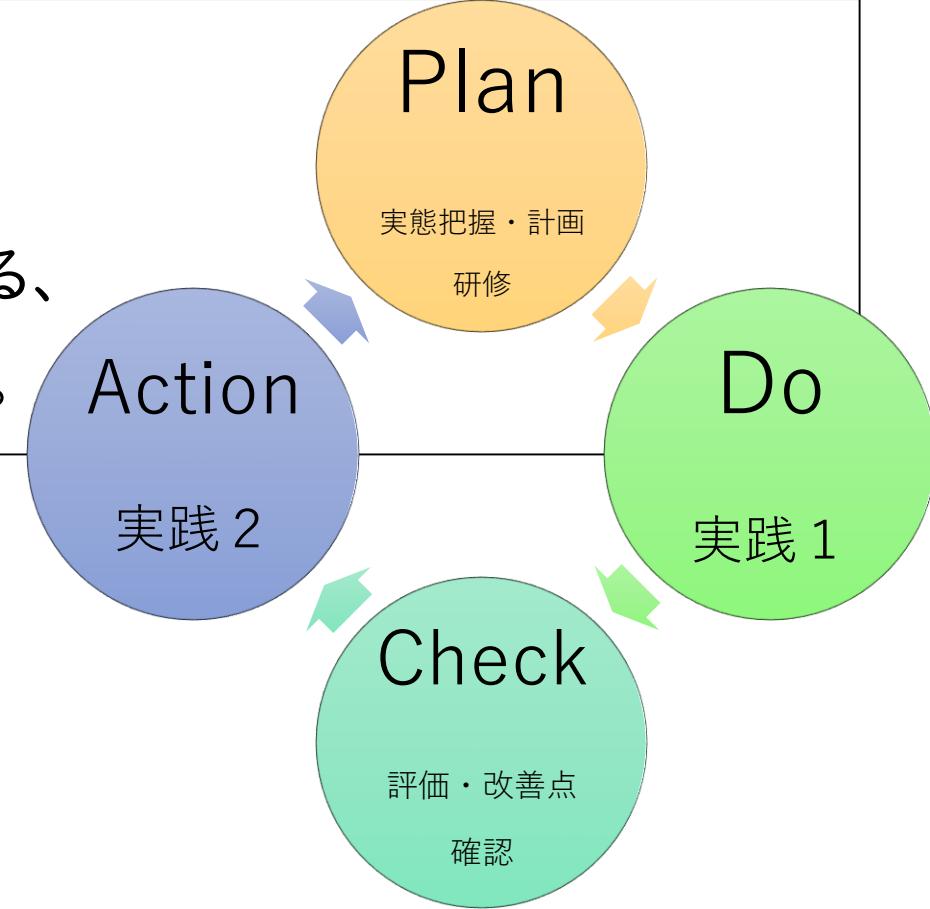
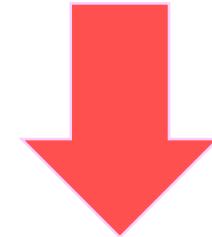
## 研究の目的

児童生徒が主体的に地域活動に関わり、ESDを通じて課題意識をもち、解決に向けて思考していこうとする力を育むための有効な手立てを、授業づくりを通して検証する。

## 【2年次】

1年目の取組みを深める。

学んだ知識や技能を今の学びに関連付けて活用しようとする、「より質の高い深い学び」を引き出す手立てを明らかにする。



既習の学習内容や経験をつなげ、  
考え方続ける姿を引き出す手立てを整理する。

# 研究仮説

SDG`sに関わる活動の指導案を作成する過程の中で、期待する児童生徒の気付きや思考を見る化し、それを引き出すための手立てを工夫することで、児童生徒が課題意識をもち、解決に向けて思考を深める姿を育むことができるであろう。

# 研究仮説～SDG'sに関わる活動の指導案を作成する・・・

## 地域とかかわる学習活動シート・連携シートで整理しながら指導案を作成する。

地域とかかわる学習活動シート【生單・統合・作業・各教科等（ ）】	
学習計画	
【単元・題材名】 防災について学ぼう ～災害への備えと地域の取組について～	【ESDのカテゴリー】 ・自然を守ろう ・みんなが住みやすい町にしよう ・伝統文化を受け継ごう
SDGs 住み続けられる街づくりを	持続可能な社会づくりの構成概念 (問題と向き合うための考え方) □ I多様性 (いろいろある) □ II複数性 (複数でいる) □ III有限性 (限りがある) □ IV公平性 (一人一人大切に) □ V連続性 (力を合わせて) □ VI責任感 (責任をもつて)
【単元・題材の目標】 ・学校や地域の災害への備えや被災者をなくすための用具、設備、取組について知る。 ・地域の安全を守るために人々の協力や関係機関との連携等について知る。 ・学びを通して災害に対する備えたり、安全に訓練することの大切さに気付かせたり、家庭や学校で自分にできることに取り組もうとする意識を高める。	・災害に対する能力・態度 (問題を解決するための工夫) □ I技術的に考える力 □ II地域的に考える力 □ III多面的・総合的に考える力 □ IVコミュニケーション能力 □ V危機感と協力する態度 □ VIつながりを育むする態度 □ VII課題に取り組む態度
活動の概要	地域の協働者・講師等
○対 象 高等部 1年 25名 ○実施日 6年 〇月 〇日 (○) ○主な活動場所 体育館、校内 ○内 容 【講義】 ・本災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験	○対 象 高等部 1年 25名 ○実施日 6年 〇月 〇日 (○) ○主な活動場所 体育館、校内 ○内 容 【講義】 ・本災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験
準備・打ち合わせ等計画	打ち合わせ内容
○月〇日 15:50～16:50 月 日 ～ 月 日 ～ ふりかえり	打ち合わせ (ここに内容を記入) (ここに内容を記入) 活動の様子 (成果と課題等)
知力 A + B + C ふるまい A + B + C 達成・協働・貢献力 A + B + C その他	(ここに活動の様子を記入) (ここに活動の様子を記入) (ここに活動の様子を記入) その他の活動の様子を記入
地域との活動を計画するときに作成し、 地域連携センターに提出する様式	
(その他の記入)	

R6 地域とかかわる学習連携シート (様式②)	
担当者氏名	松田史恵
単元・題材名	防災について学ぼう～災害への備えと地域の取組について～
単元の主題	SDGs 住み続けられる街づくりを
単元の目標	・学校や地域の災害への備えや被災者をなくすための用具、設備、取組について知る。 ・地域の安全を守るために人々の協力や関係機関との連携等について知る。 ・学びを通して災害に対する備えたり、安全に訓練することの大切さに気付かせたり、家庭や学校で自分にできることに取り組もうとする意識を高める。
この活動で子どもたちに身に付けてほしい力 (O印)	○ 知力 ○ ふるまい ○ 達成力 ○ 協働力 ○ 貢献力
(補足の内容があれば記載する。)	
○対 象 高等部 1年 25名 ○実施日 6年 〇月 〇日 (○) ○主な活動場所 体育館、校内 ○内 容 【講義】 ・本災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験	○対 象 (氏名) 浜田太郎 (連絡先) △△ー△△△△△△ ○主な活動場所 (活動写真等) ○内 容 【講義】 ・本災害の種類、避難の仕方について知る 【体験】 ・本校内の防災設備・避難経路の確認・避難体験
準備・打ち合わせ等計画	内 容
○月〇日 15:50～16:50 月 日 ～ 月 日 ～	打ち合わせ 月 日 ～
知力 A + B + C ふるまい A + B + C 達成・協働・貢献力 A + B + C その他	活動の様子 (成果と課題等) (ここに活動の様子を記入) (ここに活動の様子を記入) (ここに活動の様子を記入) その他の活動の様子を記入
※このシートは浜田市立浜田養護学校が主導する「学習活動連携プロジェクト」会員校にて実施する。	

○○学部○年○組 生活単元学習指導案	
日時: ～	指導者: ～
場所: ～	
1 単元名 ～	浜田養護学校のESD カテゴリー: ✓ ・自然を守ろう。 ・みんなが住みやすい町にしよう。 ・伝統文化を受け継ごう。
2 児童・生徒が向き合う単元の主題 ～	単元に取り組む中で 児童生徒が向き合っていく 主題・テーマ 例) 「子どもも食べやすい」という視点から地域の食材の良さを探り、発信をしよう! 例) どのように発信すれば、多くの人に浜田の魅力を知ってもらえるか?～
3 単元の目標 ～	＊単元において 児童生徒が何を学び、何を考えてほしいか?～ 教科の取り扱い等を検討する過程で、このことがぶれないよう、 思考判断表現(または深い学び)の視点から主題を書く。～
ESD の視点に立った学習指導で 重視する能力・態度	①批判的に考える力 ②未来像を予測して計画を立てる力 ③多面的・総合的に考える力 ④コミュニケーションを行う力 ⑤他者と協力する態度 ⑥つながりを尊重する態度 ⑦進んで参加する態度

# 研究仮説～児童生徒の気づきや思考を見る化… 指導案展開部分で…

\*ここまでをA4 2枚にまとめる

(3) 展開

A3も可

時間	学習活動 <行動>	支援	主題に向かう 児童・生徒の思考 (行動の背景)
①	②	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮	⑯

児童生徒が本時の目標を達成のために必要な支援を必ず記載する。

どの授業にも書くようなスタンダードな支援は、省力してもよい。ただし、自立活動の視点から個別に行う支援は、記載するほうが望ましい。

トマトの良い調理方法は何か？

幼い子どもが好きな味は何か？

深い学びを支えるために・・・

展開の吹き出しに、想定されるあるいは期待したい思考する姿を書く

【赤枠部分について】

- 想定または期待したい思考する姿に対する支援になっているか
  - 目標達成のための支援になっているか
- ・・・など、支援と、主題に向かう児童・生徒の思考を相互に確認することで、授業づくりが整理しやすいです。

# 研究の方法

1. 各学部、寄宿舎を実践グループとする。
  - ☆小学部グループ(低学年・高学年) ☆中学部グループ
  - ☆高等部グループ(高1・総合コース・職業コース) ☆寄宿舎グループ
2. 毎月1回程度学部研究会・舎研会を設け、グループで実践について協議する。※次頁に補足あり
3. 各学部においては、授業づくり・授業改善を目指した取り組みを行う。
  - ☆実践1を行い、授業改善ののち実践2を行う。
  - ☆密案による授業研究会を1回行う。
  - ☆各学部・寄宿舎とも外部講師による指導助言を受ける。
4. 地域連携センター・学習支援部と連携しながら実践を進める。
  - ☆地域とかかわる(連携協働)学習年間計画にもとづいた取組みを行う。
5. 全校研究会において各学部・寄宿舎の実践の共有を図る。

# 研究の方法 2. について

☆児童生徒が思考を深めていくことができるよう

- ① 各グループ研で実践1、実践2と指導案を用い、支援について協議を行う。
- ② 授業の展開の中で、教員がファシリテーターとなって、**協働的な学び**が充実するように検討する。